

令和6年度 第1回健やかほうふ21計画(第二次)推進委員会会議録【要旨】

1 日時	令和6年7月4日(木) 午後2時から午後3時30分
2 場所	防府市保健センター
3 出席者	<p>【委員】 山本(一)委員、竹田津委員、山内委員、藤井委員、吉富委員、長尾委員、秋里委員、山本(憲)委員、西丸委員、島田委員、椿委員、野首委員、末廣委員、松野委員、平川委員、古谷委員、目代委員、岡田委員、大本委員、古賀委員、横田委員</p> <p>※欠席：久門委員</p> <p>(事務局) 石丸(保健こども部長)、尾中(保健こども部次長)、山崎(健康増進課長)、島(技術補佐)、小野(こども相談支援課主幹)、齊藤(母子保健係長)、林(まんまる母子相談係長)</p> <p>健康増進課：永谷、渡邊、坂本、三好 こども相談支援課：白石、竹田</p>
4 傍聴者	0名
5 議題	(1) 今後の計画推進について (2) 健やかほうふ21計画(第二次)の評価 (3) 庁内各課の令和5年度の取組と今後の取組 (4) 各団体の取組について(意見交換)

- ・次第「1 開会」「3 閉会」は記載省略
- ・会長、副会長選出・・・会長：山本委員
副会長：横田委員

2 議事

(1) 今後の計画推進について

<事務局説明>

今後の計画推進について説明(資料1)

(2) 健やかほうふ21計画(第二次)の評価

<事務局説明>

健やかほうふ21計画(第二次)の評価について説明(資料2)

(3) 庁内各課の令和5年度の取組と今後の取組

<事務局説明>

庁内各課の令和5年度の取組と今後の取組について説明（資料3）

（4）意見交換

【議長】

各団体の今後の取組について、全員にご発言をお願いしたい。

【A委員】

薬剤師会では、計画の柱の中では主に喫煙に関する活動を行っている。例えば、小中学校で喫煙防止教育の講演を実施している。今後も継続して実施し、子ども達がたばこを吸い始めないように活動していきたい。学校薬剤師、禁煙相談薬剤師のような専門薬剤師を生かして、喫煙防止対策に取り組んでいきたい。

その他の活動についても、薬剤師会として行うべきことについて何かご意見があれば、ぜひ教えていただきたい。

【議長】

喫煙防止教育については、10年くらい前は自分も小学校何校かに回って講演をした。今は薬剤師会が実施してくださっているということで、とても良い取組だと思う。ぜひ今後も継続をお願いしたい。講演会を聞いた子どもから保護者に伝わる効果もあるだろう。

【B委員】

民生委員児童委員協議会は、地域にお住まいの全ての方を対象に活動しているが、特に65歳以上の1人暮らしの方、75歳以上の2人暮らしの方が安心して生活できているか、何か困ったことがないかに気をつけている。今日事務局からの説明であった健康づくりリーフレットの内容を地域の方に積極的に普及していきたい。また、健康づくりに関して、立場の異なる他の委員の御意見も大切にしていきたい。

【C委員】

私どもは、市内の事業者の経営環境を整えるために必要な助言・提案等を行っている。その中でも最近力を入れているのが、健康経営への取組である。人手不足等により従業員の確保が難しい中、代表者も含め今いる方々をいかに守っていくかが重要。その手段となるのが健康経営で、事業活動を長く継続していただくためにも、働く人が健康でいられる環境づくりのお手伝いをしている。

また、防府医師会に御協力いただき、小規模事業所向けの無料健康相談会を实

施している。3ヶ月に1度、防府商工会議所の会議室で医師に相談対応していただいている。ちょうど本日、今年度2回目の相談会を実施しており、4事業所20名程度が参加する予定である。

【議長】

従業員が50人未満の中小企業は産業医がいない。その代わり防府医師会が窓口になり、防府商工会議所で健康診断結果などに基づいて医師からアドバイスをを行っている。

【D委員】

当社はスーパーマーケットをやっている。この計画の中の取組としては、地域のために主に食育活動に取り組んでいる。ただ、新型コロナウイルス感染症が流行した2019年の年末以降は活動できず、再開したのが昨年秋からである。昨年秋以降、市外だが幼稚園と認定こども園で2回ほど食育活動を実施した。今年は現時点で3回実施予定。今後もできるだけ数を増やししながら、小学校や幼稚園保育園で食育を行い、幼少期からの健康づくりの大切さ、食の大切さ、野菜を食べることの大切さを普及する活動を行っていききたい。

企業としては健康経営に取り組んでいる。5年前だったと思うが、県が健康経営の取組を始めたときに導入した。例えば、従業員が健康宣言、例えば、“禁煙をしたい”等宣言し、それを達成できたら報償金を出すというような制度がある。また、先ほど事務局から説明があった健康づくりリーフレットに載っている山口県健幸アプリを使い、アプリは歩数計として使えるので、会社でグループを作って歩数のランキングを競っている。このアプリを使うと、どの企業でも仲間内で楽しく健康づくりに参加できるので、活用すると良いと思う。

また、防府市で取り組んでいる健康づくりの活動について、計画の中にも書いてあったが、20代30代は、仕事等で忙しく健康づくりを意識しにくいと思うので、そういう世代に向けて、届くような活動を行っていききたい。

【E委員】

皆さん色々な取組をされていて、素晴らしいと感じた。幼稚園では、子どもたちはもちろん、若いお母さんお父さんに向けても、食育の大切さをきちんと伝えていききたいと思う。また、正しい食事について、家族で話し合えるような環境づくりができるといいなと思っている。最近は便秘の子が多いなと感じているので、その対策にも取り組んでいききたいと思う。

【F委員】

母子保健推進協議会では、今年度は141名が活動をしている。主な活動は家庭訪問と子育てサークルの開催。昨年度の家庭訪問件数は3,378件。このうち、こんにちは赤ちゃん事業の訪問は732件で、社会福祉協議会からのお祝いの絵本を各ご家庭に届けている。家庭訪問の際には、保護者とお話してお子さんの成長を一緒に喜んだり、不安な様子等気になる様子があった場合には、パイプ役として行政の方に繋げたりしている。

また昨年度は4年ぶりに「わいわいHOFUっ子の集い」を開催した。従来は150組程度の親子に参加してもらうが、昨年度はまだ感染対策として規模を縮小し、100組募集した。当日は93組200人程度の親子が参加し、かなり盛況な集いができた。その様子はケーブルテレビでも放送された。今年度は10月17日に開催予定。市民へのお知らせは、市広報の10月1日号と子育てアプリの母子モで9月25日頃に配信する予定。

各地区で行う子育てサークルは、地区ごとに工夫して実施している。昨年度は全地区で合計49回開催し、これには延べ1,000人の親子が参加してくださった。乳幼児が少ない地区では小学生も交えて日曜日に開催をし、地域の中で交流を楽しんでもらっている。今年も各地区で地区の特性を生かしたサークル活動を企画・実施している。

子育て世代が孤立しないように声掛けをしっかりと家庭が心身ともに健康であるように見守りをしていきたい。

【G委員】

食生活改善推進協議会では、今年度は145名が活動している。推進員の高齢化や、年齢的に活動が難しくなった等の理由で退会され、人数が減ってきているのが課題。活動としては、幼児を対象とした親子料理教室から地域での健康づくりの輪を広げるための各公民館での料理教室、また高齢者を対象にした料理教室等をやっている。去年から料理教室を再開することができ、御参加いただいた皆さんと楽しく交流しながら活動できるようになり、「やっぱりみんなでお話しながら作って食べるのが一番だね。」と話している。今年も継続して実施する。また9月14日に市主催で実施される「幸せますケンシンまつり」には協議会としてお手伝いをする予定。

【H委員】

防府市リハビリテーション専門職協議会では、介護予防を普及啓発するために、地域で住民主体の介護予防教室の立ち上げをするお手伝い等をさせてもらっている。その他、昨年度健康増進課主催で行われた「健康づくり推進のつどい」

や、子どもたちのお祭りに協議会として協力をした。今年は「幸せますケンシンまつり」にブースを出す予定。

また、作業療法士として、山口県全体で広く市民の健康増進や成人保健分野の取組を推進しているところなので、防府市での取組を他市へも広げていきたい。

【I 委員】

今年度から公募委員として活動させていただく。私は乳児、幼児、小学生の子どもが3人いる。また、保育園で栄養士として11年間勤務しているが、3人目出産後パートに切り替え、子どもを対象とした食育料理教室を防府で開校した。保護者とも繋がることが多いので、市でどんな動きをしているのかこの協議会を通じてしっかり把握し、防府ではこんなに多くの方が健康づくりのために動いてくださっていて、良いまちだよと伝えていきたい。子どもに食育をすると、子どもは保護者に話すのがとても好きなので、保護者にも伝わる。子ども達に食べ物に触れ、知ってもらうことが大切だと思う。子どもは楽しそうに学んでくれるので、この活動を続けていきたい。

この会議で様々な方からの意見をいただき、私からは日頃繋がっているママたちの生の声を伝えていきたいと考えている。

【J 委員】

私は6年前まで教員生活を送っていた。その後は色々な仕事を行っているが、健康に過ごすにはどのような生活が必要かについて皆様方のご意見を伺いながら考え、自分と、自分の周りの人に良い影響が与えることができたらし、この会に参加させていただいている。中学校の学校運営協議会長もしており、いろんな機会でもまだ中学生たちに会うことがあるので、中学生との触れ合いを通して健康について学校現場とも一緒に考えていきたいと思っている。

【K 委員】

山口県では健康やまぐち21計画（第三次）を今年度からスタートした。防府の計画と同じく、健康寿命の延伸と健康格差の縮小を目標に掲げ、主体的な健康づくりから県民の健康を支援する環境づくりまで取り組んでいる。保健所としては、防府市の健康増進課の皆様と手を取り合い、様々な取組を行いたい。データ分析を行うことができるのが保健所の強みなので、健康寿命や、出生・死亡等のデータをしっかり分析して、市とどこにターゲットをあてて取り組むと効果が高いのかを一緒に考えていきたいと思っている。早速健康寿命についてデータを出したところ、男性より女性の方の格差が大きいということがわかり、女性は3年程度平均寿命と開きがあるとわかった。そのようなデータを市と共

有しながら取り組んでいきたいと思っている。また県は地域職域連携推進事業を推進している。この事業も活用して取り組んでいきたい。

【L委員】

養護教諭として小学校の保健室で感じることは、体調不良で保健室に来る子のほとんどが22時以降に寝ているということである。小中連携で市内の学校で睡眠アンケートをとったところ、22時か23時以降に睡眠している子が50%以上いるという結果が出た。今の子は塾や宿題などで忙しく、お友達とオンラインゲームを夜11時に集合して遊ぶなどという話も聞く。子供たちだけでは自制が効かないと思うので、保護者をいかに巻き込むかというところを学校でもいろいろと考えている。子供たちには睡眠不足と健康の関係をしっかりわかりやすく話し、これから改善に向けていきたい。

【議長】

ちょうど今年11月に医師会、歯科医師会、薬剤師会が主催で行う市民健康フォーラムのテーマが“睡眠”である。睡眠は健康においてとても大切なので、皆様ぜひ来てほしい。

【M委員】

山口県漁業協同組合としては、魚を全世代の人に食べてもらいたい。小さい子どもは骨を嫌がって魚を食べたがらない子もいると思うので、魚祭り等を開催して市場に来てもらい、生の魚を触ってもらったり、色々な魚を食べてもらったりができるように考えていきたいと思う。

【N委員】

私は初めてこの会議に参加させてもらうが、色々な取組をされていることが分かった。数日前に、中学生の娘が学校で薬物乱用教室があると話していた。PTAとして、そのような教室をしていただけるのは本当にありがたいと思う。また、自分自身のことでは、毎年3月に保健センターからがん検診等受診券が届くが、結局受けそびれてしまう。自分自身が健康でないと家族も周りの人も守っていけないと思うので、まず検診に行こうとこの計画を見ながら思った。

【O委員】

保育園、子育て支援センターは色々な人との繋がりが大きいので、健康づくりにおいても大切な立場だと感じている。また、今日皆様のご意見を聞き、子育て中のお父さんお母さん、そして子供たちが色々な団体と繋がってお世話になっ

ているということも実感した。D委員の企業には、何年か前に子供対象の食育の指導に来ていただいたことがある。今日お話を聞き、また申し込みをさせていただきたいと思った。それからI委員の話聞いて思ったのは、園児は美味しかったメニューの日とか、手作りおやつで新しいメニューが出たら、キッチンに行って先生にレシピをもらおうとする。また、保護者の方で作り方を習いに来られる方とかもおられるので、すごくいい活動をしてくださっていると感じた。

【P委員】

社会福祉協議会として現在感じているのは、地域福祉の担い手が不足しているということである。自治会組織や地区社会福祉協議会の組織の会員が減少してきているという現状がある。また、地域の繋がりが弱くなっているのではないかと感じる。生活困窮者への自立支援を社会福祉協議会が行っているが、コロナの影響もあってか相談件数が増えている。昔であれば地域のことは地域で解決できていたものが、今なかなか社会の仕組みとして解決できてないこともあるのではないかと感じている。

また、健康増進に関する市の取組の中で、赤ちゃん文庫や障害者スポーツ大会等、社会福祉協議会が携わっている業務も様々あるので、市内でも連携しながら、また皆様とも連携しながら役割を果たしていきたい。

【Q委員】

先程事務局からの説明の中であった次期計画策定のためのアンケートについて、80歳代がアンケート調査の対象になっていないのは何故なのかが疑問である。アンケート結果がないと、我々がこれから事業あるいは活動を推進していくための資料が得られないので、それは残念に思う。

また、市も我々も健康長寿を目指そうということを感じて唱えている。老人クラブは「伸ばそう健康寿命」をメインテーマにしている。しかし私は、健康寿命の延伸は、目的じゃなくて手段にしていかないといけないのではないかと感じる。健康はもちろん大切。しかし、健康は何かを遂行するための手段だと思う。では目的は何かというと、自己のライフワーク完成。人や地域社会のためにいろいろ貢献をするとか、活動するとか、そういったような類のものだと思う。とにかく人を助援する。あるいは人から感謝されること、何よりも自分を幸せにすることになるのではないかと感じる。自分の存在や活動が人や地域社会に貢献しているということの実感ができるような活動ができる活動寿命を延伸することに努めることが大切だと思う。

【R委員】

皆さんの御意見を聞き、健康づくりにおいて様々な取組をされていることがわかった。自治会連合会としても、会議の際に健康づくりに関する話題を提供する等して、これから健康づくりにも取り組んでいきたいと思う。災害時によく「命を守る行動をしてください」というような報道があるが、「自分の健康は自分で守る」というような意識を伝えていけたらいいなと思っている。

【S委員】

防府歯科医師会としては、引き続き無料歯科検診、企業検診、市民講演会等を実施する。また、健康づくりに関するイベントには全面的に協力していきたいと考えている。ケンシンの受診者を増やす方法について思うのは、実際にケンシンに来られる方がよく言われることは、「かかりつけのお医者さんに言われたから。」「薬剤師さんに言われたから。」「友人や家族に言われたから。」というように、人と人との繋がりで受ける方が多いということ。ポスターを貼る、リーフレットを置くということではなく、なるべく人と人の声かけ、実際声に出すということが大切で、これを各団体で行うと今よりも遥かにケンシンを受ける人が増えるのではないかと思う。歯科医師会として、今後そのために活用できるようなツールを作りたいと考えている。

【議長】

今の皆さんのお話聞いていて、食べることと寝ること、これをもう一度見直ししてほしいと思った。これは熱中症の予防にもなる。まず体を作ることが一番大事で、夜10時よりも早く寝ることが大切。良い睡眠は、記憶力、抵抗力、免疫力も上がる。成長ホルモンが出る夜10時、どんなに遅くても12時より前には寝ることが大切。宿題も何も朝早く起きてやるような生活にスイッチすると絶対いいと思う。朝ごはんが待ち遠しくなるような食生活にしてほしい。和食のバランスが取れた朝ごはんをしっかりと食べることも、熱中症対策や健康づくりのうえで大切である。

それともう一つ、医師会として今お伝えしたいことは、子宮頸がん予防ワクチンのキャッチアップ接種について。市内の高校何校かにはパンフレットを配っている。対象年齢の終わりにある人が公費で接種を受けられるのが来年の3月まで。このワクチンは、3回接種が必要で、受け終わるまでには半年ほどかかる。9月いっぱい1回目を終えておくと3回とも公費で受けられるため、ぜひ早めに受けて欲しい。世界的にみると、このワクチンを恐れて打たなかったのは先進国の中では日本だけのような。子宮頸がんはこれからどんどん増える可能性があり、予防する方法があるがんの一つなので、ぜひお知らせしたい。

では総評を副会長お願いいたします。

【副会長】

今回、委員の半数が交代されているが、今日みなさまのお話を伺っていると、新委員もすでにそれぞれの団体での様々な活動の中に健康づくりを取り入れており、更に、今後も進めていこうという意気込みがお一人お一人の言葉から伝わってきて、心強く感じた。乳児から高齢者まで幅広い世代にそれぞれの立場で直接接しておられるので、皆様の活動が、市民一人一人に浸透して行くといいなと思った。

この推進委員会の意義は、市と皆様の団体がつながることと、もう一つは皆様もすでに言われていたが、委員さん同士の横の繋がりができること。こういう場で顔を合わせてお話を聞くことで、「このことだったらあの人に頼んでみようかな。」等自団体での活動に役立つ。そうするとこの会への参加も更に楽しくなると思う。

また、Q委員が言われていた、「健康は目的ではなく手段で、その先にある幸せや社会貢献等がその先にあるのではないか」ということについて、その通りだと思う。WHOが約40年ほど前から提唱していて、国の健康日本21や県、市の健康づくり計画のものの考え方である「ヘルスプロモーション」には、まさに健康は目的ではなくて手段だということが書かれている。Q委員ご自身が、健康は一人一人の生活の質であるQOLや、幸せに繋がっていくものだということをも今まで体感して来られた上でご発言いただき、有難く思う。あともう一つヘルスプロモーションに書かれていることは、自分で自分の健康を守るということはもちろん大事だが、一人一人が健康づくりに取り組もうとしたときにそれがより取り組みやすいように、周囲の環境を整えていくことが大切だということ。それは、行政や今日それぞれの団体から発表していただいた取組だと思う。今日のこの会議で、まさにこのヘルスプロモーションの活動を今この防府市で実施していただいていることと、理念も確認できたので、とても充実した会議だったと思う。地域でこのような取組をしているというのは、私も大学で学生に紹介しようと思う。

【議長】

最後に、Q委員からの計画の最終評価及び次期計画策定のためのアンケートの調査対象者の年代に関する質問について、事務局から回答をお願いしたい。

【事務局】

健康増進計画は健やかな親子を育むことや若いころからの健康づくりを行う

ための計画ということで、アンケートの対象年齢を現在のように定めている。
80歳代以上の方の健康に関しては、高齢福祉課が作成している防府市高齢者
保健福祉計画の中に位置付けており、アンケートについては介護予防の視点か
ら食生活等の内容のアンケートを行っている。今後は、今日いただいたご意見を
参考に、健康増進計画と高齢者保健福祉計画とのつながりを意識して取り組む
必要があると感じた。

以上により議事終了